

誰もがいきいきと安心して住み続けられるまちへ

高齢者の聴こえの支援事業

加齢による聴力の低下は、社会参加の機会の減少や認知症の要因となることがあります。

誰もが住み慣れた地域でその人らしい日常生活が続けられるよう、補聴器の購入費補助や講演会、相談会などの聴こえの支援を行います。

加齢性難聴とは？

個人差はあるものの、40代、50代になると「聞こえにくさ」を自覚し、65歳以上では3人に1人が加齢性難聴になるといわれています。

耳には細かな血管がたくさんあり、動脈硬化*で血流が悪くなると、耳の神経や細胞の働きが弱まり、難聴を発症します。動脈硬化や低血圧などの場合は、血流をよくする薬が有効な場合もあります。

加齢性難聴は年を重ねると誰にでも起こりうるものですが、対策をとることで発症や進行を遅らせることはできます。何よりも、生活習慣の改善が大切です。



*血管の中にコレステロールなどがたまり、血管が硬くなったり詰まったりして、血流が悪くなる状態。

〈加齢性難聴の症状〉

高い音から音が聞こえにくくなりま
す。体温計の「ピピッ」という音や、
電子レンジの電子音は聞こえます
か？ テレビの音量が大きくなったり、
会話を聞き返すことが増えたりとい
った変化を感じたら、**早めに耳鼻咽
喉科で調べてもらいましょう。**

〈対策〉

- ① 大きな音を聞き続けない
- ② 「動脈硬化」の原因となる「高血圧」「糖尿病」などの生活習慣病の予防

生活習慣の改善には
「人との触れ合い」
「運動」「食事」が大切！



！ 認知症の最大のリスクは難聴？

難聴のために脳に伝わる音や刺激が少なくなると、脳の萎縮や神経細胞の機能低下につながり、認知症の発症に大きく影響することが、近年分かってきました。また、人や社会とのコミュニケーションを避けがちになってしまい、次第に「うつ」や「社会的孤立」の状態になることも、認知症の危険因子と考えられています。

「よい聴こえ」は認知症予防につながる？



補聴器を着けるなどして難聴に対処し、「よい聴こえ」を維持して脳を活性化し、さらに人や社会とのコミュニケーションを楽しむことは、難聴の不便さを抑えるだけでなく、認知症の予防や発症を遅らせることにも有効であると考えられています。

また、認知症も生活習慣を改善することで発症リスクを抑え、進行を緩やかにすることができるといわれています。市では補聴器の購入費補助事業が始まりました。詳しくは市報や市ホームページをご覧ください。



高齢者
補聴器購入費
補助事業